

一般社団法人 日本画像学会 第 64 回定期総会議事録

日時： 2021 年 6 月 25 日（金） 15 時 00 分～16 時 00 分

場所： Zoom オンライン会議

出席： ・社員（委任状による者を含む）：473 名

- ・役員 会長 佐藤 利文
- 副会長 小林 範久、三矢 輝章
- 理事 田中 作白、吉田 稔、中山 信行、
服部 好弘、藤井 雅彦、面谷 信
河野 信明、直井 宏夫、新井 啓之
近藤 芳昭、面谷 信、
石本 文治、内藤 裕義、坂口 雅敏（記録）
- 理事候補 木崎 宏恵、
- 監事 中居 達、寺尾 博年
- 幹事 中村 一希、山崎 弘、中井 洋志
- ・事務局 竹内達夫

<議事>

1. 開会の辞（中山運営委員長）

- ・ 定刻になったので只今から第 64 回定時総会を開催する。
- ・ 第 1～3 号議案が審議承認案件、第 4 号議案が報告案件である。

2. 会長挨拶（佐藤会長）

コロナの影響で本総会も含めオンライン開催とせざる得ない状況である。

昨年度はコロナの影響で会員数が大きく減少したが、イベントの制限が多かったことが原因と推測している。

今年度は ICAI2021 をハイブリッドで開催、1 週間ずらして P4F はオンライン開催。

第 3 回複写機遺産認定、国立科学博物館「産業遺産」調査協力を行う予定。

コロナ禍ではありますが、健康にご留意いただきながら学界活動にもご協力をお願いします。

3. 定足数の確認・報告・議長選出（中山運営委員長）

①定員数の確認・報告

- ・ 定款第 13 条において総会成立は会員の過半数の出席が要件になっている。現在の会員数は 700 名（学生会員除く）であり、定足数は 351 名となる。
- ・ 出席者は、ハガキ/WEB による既議決者数 49+同委任者数 375+本日の出席者数 49 =合計 473 名である。定足数 351 名を上回り、定時総会が成立する。

②議長選出

- ・ 定款第 15 条により総会議長は会員の中から選出することになっている。
- ・ 本日の参加者から議長を募ったが希望者は無し。よって、運営委員会から本学会の佐藤会長を議長に推薦した。

賛成多数で承認された。

4. 第 1 号議案：2021 年度役員案【審議・承認】（中山運営委員長）

- ・ 定款第 23 条により当学会の役員任期は 2 年であり 1 年毎に半数を改選することになっている。
- ・ 役員承認（総会資料 P12 を参照）
2021 年度改選候補（任期：2021 年 6 月－2023 年 6 月まで）：理事候補 13 名、監事候補 1 名
非改選役員：理事 16 名、監事 1 名
役員/役員候補総数：31 名（理事/理事候補 29 名、監事/監事候補 2 名）、内新任 6 名、留任 25 名
- ・ その他、退任役員等の紹介（総会資料 P14 を参照）
2020 年度退任役員 4 名
2021 年度幹事 3 名、顧問 7 名

質問（校條さん）：理事は一組織から一名選出の方針ではないのか？

中山理事回答：一組織一名は会長、副会長はカウントしないことになっているのと、この方針は理事会で承認されていない。現状は各組織の方針に従い選出されている。

* 第 1 号議案の審議結果

2021 年度役員案について、賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成 42 票、反対 0 票、議長/その他会員委任 333 票）

5. 第 2 号議案：2020 年度事業報告【審議・承認】（中山運営委員長）

- ・ 主要 5 委員会に絞り、スライドを用いた活動報告とさせて頂く。また、時間の関係上、運営委員長から 5 委員会の委員長を代行して報告する。
- ・ 以下 5 委員会以外の活動報告は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい。

(1) 編集委員会（中村幹事）中山理事代行

① 委員会組織・活動

- ・ 編集委員会 6 回開催，特集企画会議開催

・学会誌企画・編集, 校正, 各種 WG

② 学会誌

- ・年 6 冊定時発行の堅持 (欠損なく情報提供継続)
- ・第 2 回複写機遺産特集 (10 月号)
- ・クラスタ論文特集号の発行 (12 月号)

Image Processing Technologies based on AI, 英文解説 6 編を掲載

③ その他の活動

- ・フリートーキング開催 (オンライン)
第 36 回「省エネ技術」2020/9/18, 75 名
第 37 回「カプセル化技術」2021/3/15, 54 名
- ・編集委員長賞選考・表彰
ICJ Spring, ICAI2020: 開催形式変更に伴い, 関西委員会や理事会と連携して
選考
- ・学会誌面面向上の取り組み
執筆要項の全面改訂,
編集・査読プロセスの変更 (要件確認専任者設置)

投稿論文が少なくなっているため積極的な投稿をお願いします。

(2) 技術委員会 (小林副会長) 中山理事代行

①体制

委員長: 小林範久、副委員長: 藤井雅彦

主査交代: 画像処理, 画像技術用語, 電子ペーパー/フレキシブル, MBD

②部会

(廃会) 画像評価技術部会, イメージング材料部会

(休会) デジタルファブ리케이션部会

③討議・交流

メール主査連絡・会議(7/13, 8/6, 12/23, 1/21)、総会 (1/21:参加者 96 名) 開催

④複写機遺産

第 2 回複写機遺産認定 3 機種発表/プレスリリース

認定式(対象各社事業所 10/23, 11/19)

⑤技術研究会

第 146 回 (11/18) 電子ペーパー/フレキシブル技術研究会

第 147 回 (11/26) MBD 技術研究会

第 148 回 (02/05) 電子写真技術研究会

カンファレンス 4 DFF2020 (online 10/15, 16)

⑥技術講習会・シンポジウム

第 84 回技術講習会(9/24-25, 10/8-9)、関西シンポジウム (online 12/4)

関東シンポジウム (online 2/19) に協力

⑦書籍

「画像処理」「有機半導体」の編集 (継続)

⑧領布・販売

標準キャリア領布 (トナー技術部会)

(3) 企画委員会 (中井幹事) 中山理事代行

①イメージングカフェ

- ・感染症影響を受け7月度まで中止とし、8月度よりオンライン形式にて再開
- ・2020年度は計4回 (累計87回※中止2回を含む) 開催
- ・延べ参加者153名: 会員148名、非会員5名

②2020年度関東シンポジウム

- ・当初は2020/6/26に開催予定であったが、感染症影響により延期
- ・『シミュレーション技術の最新動向』
～今こそ知りたい、イメージング分野への適用事例～と題し、
改めて2021/2/19にオンラインで開催 (参加者28名)

(4) コンファレンス委員会 (三矢副会長) 中山理事代行

2020年 年次大会 (Imaging Conference JAPAN 2020: ICJ2020)

[日本画像学会研究討論会 (第126回): 日本画像学会年次大会]

- ・Printing for Fabrication 2020 by IS&T および ICAI2020 by FIS(画像関連学会連合会) 合同の国際会議の中で11月に開催予定であった。
- ・COVID-19の影響が避けられない見通しのため急遽2021年に延期を決定した。
- ・ICAIの中での位置づけとし、予稿の発行 (2020年12月) のみを実施した。

(5) 事業委員会 (吉田理事) 中山理事代行

①第84回技術講習会「未来を切り開く画像技術の基礎と展望」

日時: 2020年9月24日 (木), 25日 (金) [IJ] 10月8日 (木), 9日 (金) [EP]

会場: Zoomによるオンライン開催 (講師、事務局は「ユニコムさがみはら」で運営)

参加者数: 63名 () 内は昨年実績

正会員・維持会員: 56名(90)、非会員: 5名(20)、学生: 2名(6)

<トピックス>

- ・初のオンライン講習を大きな問題なく運営
- ・シミュレーション講習は中止とした
- ・講習の有意性については良好な評価 (アンケート結果)
- ・予稿集、講義資料の完全電子化、事前配信の実施

②秋のチュートリアル (関西)

2020年度は技術講習会に統合

(オンライン化により、関東以外の地域から技術講習会参加が容易になったため)

* 第2号議案の審議結果

2020年度事業報告について賛成多数で承認された。

(事前投票：賛成42票、反対0票、議長/その他会員委任333票)

6. 第3号議案：2020年度決算案・監査結果【審議・承認】(服部理事、中居監事)

(1) 2020年度決算報告

①収支概要

- ・2020年度通期事業活動収支は383万円の黒字決算

②事業活動収入詳細

- ・100名分の会員減
- ・下期イベントオンラインで再開
- ・講習会参加人数現
- ・標準キャリア頒布が堅調
- ・論文掲載料金改定によるアップ

③事業活動支出詳細

- ・会誌発行部数減。
- ・研究会、講習会リモート開催により会場費減。
- ・諸委員会、理事会等リモート開催
- ・緊急事態下で開局時間減、出張費減
- ・Zoom導入

④事業収入の推移

- ・正会員費収入微減傾向から大幅落ち込み
- ・研討/研究会収入、講習会参加費落ち込み

⑤事業支出の推移

- ・会誌発行費減
- ・イベント開催費用減
- ・諸委員会費減
- ・事務員費減 オンライン化による経費軽減

(2) 2020年度監事監査報告

①監査方法の概要

- ・監事は、理事会や重要な会議に出席するほか、日本画像学会の関係者から事業の報告を聴取し、重要な書類の回付を受け学会における業務及び財産の状況を調査致しました。
- ・日本画像学会の関係者および財務委員会からの報告および説明を受け、監査委員会を実施して、収支決算書および貸借対照表について監査を実施致しました。

②監査結果

・業務監査の結果

日本画像学会の業務については、日本画像学会の年度計画、事業計画等に基づき適正に運営されていると認めます。

・会計監査の結果

2021年5月13日に監査委員会を実施した結果、服部財務委員長より説明があった、2020年度日本画像学会収支決算書、正味財産増減計算書、貸貸対照表、財産目録は、必要な事項を正しく示していると認めます。

質問（面谷理事）：会誌発行費が減っているのはなぜか？

服部理事 回答：会員減により発行部数が減っているため。

*第3号議案の審議結果

2020年度算案・監査結果について賛成多数で承認された。

（事前投票：賛成41票、反対1票、議長/その他会員委任333票）

7. 第4号議案：2021年度事業計画/財務計画/年間予定【報告】（中山運営委員長/服部理事）

■2021年度事業計画（中山運営委員長）

- ・第2号議案の2020年度事業報告同様、主要5委員会の2021年の活動計画について運営委員長が代表して報告させて頂く。
- ・活動計画に続き、2021年度財務計画について財務委員長より報告させていただく。
- ・5委員会以外の活動計画は配布資料を参照頂き、質問等をお願いしたい
- ・学会の体制図、常設委員会組織図、技術委員会/技術部会組織図を示して説明した。

（1）編集委員会

① 組織

・編集委員会

定期委員会開催（年6回）

学会誌編集，校正

編集，査読プロセス変更の本格運用

→作業負荷の分散・誌面品質向上

・査読体制の強化の継続

主に内容面と，主に体裁・要件面を審査する2名査読者体制

・会誌電子配信の充実継続

海外在住会員，シニア・学生会員

・学会内他組織との連携

ICJ (ICAI) 実行委員会との連携継続

4DFE 論文誌発行協力の継続

② 学会誌

・年 6 冊の定時発行

ICJ 発表からの論文勧誘の促進継続

年 1 回の英文クラスタ論文特集号

特集記事 (IT/AT) の充実

Imaging Highlight, 教育講座, 研究室訪問の掲載を継続

③ その他の活動

・フリートーク開催

第 38 回, 第 39 回を企画, 開催予定

・ICJ 編集委員長賞, 学会誌論文賞

(2) 技術委員会

① 技術委員会の開催

② 技術交流会の推進

③ 書籍:「画像処理」「有機半導体」の出版

④ ICAI2021/Print4Fab (幕張) 開催

⑤ 活動予定

・主査会議、技術委員会総会の開催

・HP の充実

・技術講習会 (春・秋)、関東・関西シンポジウムへの協力

・複写機遺産認定事業の継続

(3) 企画委員会

① イメージングカフェ

・1 回/2 カ月のペースで計 6 回開催予定

・引き続きオンライン形式にて行う

(リアル開催が可能となった場合もハイブリッド形式を念頭)

② 2021 年度シンポジウムの企画運営

・詳細未定、他イベントとのバランスを見て決定

(4) コンファレンス委員会

Imaging Conference JAPAN 2021

[日本画像学会研究討論会 (第 128 回): 日本画像学会年次大会]

①<現時点での計画> ICAI/Print4Fab2021 の中で 2021 年 10 月 4 日 - 10 月 8 日
幕張メッセ (General Chair: ICAI 佐藤氏 (工芸大), Print4Fab: 三矢氏 (リコー)、

Joint Program Chair: 中山氏(富士フィルムビジネスイノベーション)で実施する。
2020年と同様に画像学会の運営幹事会社を富士フィルムビジネスイノベーション
殿、副幹事会社をリコー殿にお願いする。

②In Person Conference (Hybrid) を実施するが、政府方針に則って規模の縮小
(当初計画の 1/2) などの対策を行う。参加者計画 150 名うち海外 30 名、(当初
計画 300 名うち海外 60 名)。その時点での COVID - 19 の影響により、計画変
更の可能性、形態も Online の可能性を残す。

(5) 事業委員会

これからも若手／中堅技術者育成に繋がる活動を行います！！

① 第 85 回技術講習会 2021 年 7 月 13 日 (火) ~16 日 (金)、19 日 (月) web 開催
サブタイトル「困難に打ち克つための画像技術の基礎と応用」

- ・『基礎知識の習得と深化』で実務に直轄できるプログラム作り、講習内容の充実
- ・中堅者も対象とした技術動向、将来技術展望、展示会社イベント
- ・昨年同様オンラインで開催(本年は展示会社ブース、オーサーズインタビューを復活)

- ・シミュレーション講習も開催(シミュレーション部会と連携しトライアル開催)
- ・各社、各大学におかれましては、講師の派遣協力に感謝いたします

② チュートリアル 2021 2021 年冬開催予定(検討中)

- ・講師と直接議論しながらの特別セッション
- ・『電子写真技術』、『インクジェット技術』、『シミュレーション』の 3 分野での実施を検討(オンライン開催の可能性についても検討中)

- ・他にご希望分野あれば、積極的に展開いたします

- ・定員は各講習 15 名程度

■2021 年度財務計画(服部財務委員長)

(1) 2021 年度予算編成方針

- ・2020 年度は大幅な減収となるも、オンライン化による経費削減により想定外の黒字となったが、参加者減、会員数減となり会勢低迷が課題。

- ・2021 年度は、経費のみを見てオンライン化するのではなく、COVID 感染状況も睨みながら、対面再開または併用の模索を進めていく。

- ・上記の前提で、事業収入予算は 2020 年実績からある程度の復調を見込んで上積み。事業支出予算はそれより早く例年水準に戻る想定での上積みを行い、事業収支は赤字設計。

- ・2020 年計画から 1 年延伸して 2021 年度に ICAI 国際会議を開催し、国際会議関係収支に計上する。

- ・ICJ 東京開催が無いため検討・研究会収支はその分を抜いて計上。

- ・管理費支出は、経費節減体質を維持しつつも、ICAI および対面イベント再開にか

かる人件費増を見込んで計上する。

- ・国際会議準備資金積み立ては今年度も見送る。

(2) 収支予算概要

- ・国際会議開催収支を上積み、他イベントも全開催想定
- ・収支上は72万円の赤字予算

(3) 事業収入詳細

- ・会員減実態の反映+年次大会開催での新規入会期待.
- ・研究会講習会オンライン or ハイブリッド開催を想定
- ・国際会議開催予算を計上

(4) 事業支出詳細

- ・研討/研究会、講習会費 対面オンライン併用想定
- ・委員会費、諸会議費 対面オンライン併用想定
- ・国際会議 ICAI2021 開催費用
- ・海外からの講演者補助
- ・通信運搬費 対面/オンライン併用あり想定
- ・事務員費 国際会議に伴う事務繁忙化を考慮
- ・今年度租税公課なし

(5) 投資活動, 財務活動収支

- ・他会計振替: 国際会議準備基金積み増しは実施しない。

8. 質疑応答 (佐藤会長)

質問 (中島さん): 正会員数の減少に対して新しい取り組みがあれば教えて欲しい。

コロナ禍でのイベントの在り方を検討する委員会を作ったほうがいいのでは?

佐藤会長回答: 会員増に対しては、イベント減の影響や新規の取り組みが出来なかった影響もある。役員研修会で議論したい。

オンラインだから参加できた人はいた。遠方の方の対応としてハイブリッド開催などの検討をしている。この点も役員研修会で引き続き検討したい。

中山理事回答: 昨年度の役員研修会で検討を行い、シニア会員の横のつながり強化、大学会員の褒賞、ブレイクアウトルームの活用など提案した。

オンラインワーキンググループでオンラインイベントの開催に関して検討を行った。

提案や検討結果に基づき各委員会でイベントの特性に応じた開催方法を選択し実施している。

質問 (中島さん): ワーキンググループ活動は理事会で報告されているか?

若手に対しても魅力ある学会にして欲しい。

中山理事回答: ワーキンググループ活動は理事会で報告をしている。

9. 閉会の辞 (佐藤会長)

本年度もオンラインでの総会であったが皆様のご協力により無事終わることが出来た。皆様のご協力を引き続き宜しくお願いします。

2021年6月25日

一般社団法人日本画像学会 2021年度総会議事録

総会議長 佐藤 利文 印

議事録署名人 中山 信行 印

議事録作成者 竹内 達夫 印